

# 岡山から質の高い朗読文化を発信する

## 朗読塾

### 活動の目的

明確で力強い言葉の表現と伝達を軸に、豊かな表現力を養い、照明、音楽等駆使して、集団による立体的な舞台朗読活動を行う。そして作品の持つ感動や叙情を力強く表現し、朗読の楽しさ、素晴らしさを観客と共有し、芸術・文化の向上、育成に寄与することを目的としている。

### 活動の内容及び経過

朗読塾は昨年20回の公演を経て、新しい一歩を踏み出す21回目の公演を迎えた。例年一人の作家を取り上げ「・・・の世界」というタイトルで行ってきたが、新機軸を目指し、作品名をタイトルに掲げ、長編作品を取り上げた。長年温めてきた作品から泉鏡花の「吉原新話」を選定した。この作品は、舞台劇化、映画化はされていない様子で、これが初の舞台朗読化ではないかと思った。泉鏡花は金沢市に生れ、江戸文芸の影響を受けた怪奇と、独特のロマンティズムがあり、幻想文学の先駆者と評価されている。1月に台本作成、3月に配役を決定し練習に入った。

今日あまり使われない言葉、また泉鏡花独特の言い回しなど多くあり、一文字一文字を、大切に再現するよう心掛けた。例年通りの立体朗読（登場人物と地読みの部分を完全に分け、聞いている人が、登場人物のキャラクターを十分意識できるよう配慮する。こういう方法を、立体朗読と自称している）で出演者が一体化して表現することで、より深みのある作品になることを目標とした。吉原の引手茶屋で「百物語」の会が催され、電気を消して、暗闇の中で怪談話を語る設定で物語は始まる。

その雰囲気作りに、照明効果を大いに活用することに重点をおいた。しかし、会場の西川アイプラザは第三者管理制度に変更後、照明等の技術面に少し問題があったので、この助成を頂くことによって、その点を充実することができ、本来の目的を達することができた。よりシンプルな舞台装置、洗練された照明を駆使できることを念頭に、舞台美術、照明プランを設計し、練習を開始したが、予定通りの結果に満足している。朗読塾ではメンバー全員の出演を念頭に置いている。出番の多い少ないが発生したが、出番の少ない人も、物語全体の雰囲気を考えながら頑張った。また、「吉原」という言葉から、いろいろな背景、状況を紐解いたりし、江戸文化の一端に触れることができた。歌舞伎で行われる「付け打ち」を採用して効果を高めたりした。今後の大きな発展性を掴むことができたと感じる。



### 活動の成果・効果

助成を得ることで、想定した重量感あふれる作品に挑戦することができ、多くの来場者が満足できる舞台創作が可能になり、11月4日、5日の公演を迎えることができた。4日（土）は夜にもかかわらず160名以上、5日（日）は190名の来場者を迎えることができた。多くの絶賛の声とともに貴重なご意見も頂いた。メンバーの会費のみでは実現が難しい2日間公演、満足する舞台装置、満足できる照明・音響の駆使ができたことが助成の大きな力であると言える。岡山県の文化振興に多少なりとも寄与できたと思っている。

### 今後の課題と問題点

近年、朗読はブームになっている。喜ばしいことである。これは追い風として、今後のより充実した舞台創作活動を行うには、上演開場の使用利便さ（駐車場等）、練習場の確保、経済的負担低減などが大きな課題である。また、催し物を宣伝するためのマスコミ等の協力がもっとあると非常に心強い。

- 代表者：曾和敏明 ●所在地：岡山市中区門田屋敷
- TEL：086-272-6614 ●E-MAIL：okita@gold.megaegg.ne.jp
- URL：http://ameblo.jp/roudokujuku/
- 設立年：1995年 ●メンバー数：15名